

◆日根野聖子 選

小西昭夫先生は、十五年前から俳句とアートの作品展「遊五人展」を開催されています。今年は、水墨画やイラスト、写真など、十三名の作家による作品七十点が展示されました。

会期中の朗読会では、小西先生の俳句とコメントの作品「チンピラⅨ」が披露され、会場は、オホホ、アハハ、フムフムの心和むひと時となりました。

「チンピラⅨ」

小西昭夫

ぶんぶんとぶんぶんぶんとかなぶんぶん

ぶ、ん、と、か、なの五音で俳句を作ってみました。

子子の腰くねらせて浮いてくる

色っぽいということはいいことです。

五月来る馬鹿にがつくほど晴朗に

四月馬鹿は有名ですが、五月も負けていません。

羽抜鶏ぼくは奥歯を抜かれます

鶏の羽は抜けてもまた生えてきます。

遠足のバスを飲み込む春の山

観察していますと、山は結構大食漢です。山の胃袋は結構大きいのです。

真っ直ぐの言葉はあらず蝶の辞書

ナポレオンの辞書には「不可能」という文字はありませんでした。

青葉風今日はフランスパン日和

ぼくはアンパンマン日和も好きです。

四捨五入してカブト虫六センチ

小学校で習った算数は今も役に立っています。

#### 梅雨鯨小顔のものもあらまほし

「あらまほし」というのは、あって欲しいということです。小顔が流行る時代です。

#### 耳にまで蟻の来ている庭仕事

ちょっとかゆいなと思って手をやりました。

#### 贅沢は素敵だ大粒さくらんぼ

戦時中のスローガンは「贅沢は敵だ」でありました。

#### 案内を間違えている道おしえ

道おしえとは斑猫<sup>はんみょう</sup>という虫のことです。山径に行くとよく出会います。人が近づくと一メートルほど飛び去り、また近づくと飛び去るので、まるで人に道を教えているようなのです。

#### 名を聞いてすぐに忘れる秋の草

忘れな草のことではありません。

#### この世とは不可解なりと蚯蚓鳴く

鳴かないのに俳人に鳴くと言われている蚯蚓のつぶやきです。

#### 夫婦相和し枝豆御飯好むなり

「夫婦相和し」は戦前の「教育勅語」にある言葉ではありません。

#### 播<sup>す</sup>り終えし大根おろし五人分

結構疲れます。

#### 発つことのなき白鳥が堀之内

白鳥は渡り鳥ですが、春になっても帰らない白鳥もいます。

#### 下向いて歩くばかりや秋暑し

坂本九の「上を向いて歩こう」という歌は大ヒットしました。

#### 自分から見つかりに行くかくれんぼ

かくれんぼとは何と淋しい遊びでしょう。

**西鶴忌恋に死ぬとは贅沢な**

たましいのお話です。

**日記には亀が鳴いたと書いておく**

嘘も方便です。

**夫婦とは二心二体の温かさ**

夫婦は一心同体というのは嘘です。

**秋茄子を食うているなり妻の留守**

秋茄子は嫁に食わすなといます。

**別れる切れるは俳句の話秋の暮**

俳句では季語よりも切れが大切という方もいます。

**くるくると柿を裸にして吊るす**

ぼくはサディストではありません。

**年越しのそばは大盛りだが足りぬ**

毎年、年越しそばを食べます。

**蛤の雀にもどることありや**

秋になって雀が少なくなるのは、雀が海に入って蛤になるからだそうです。

**妻の留守三日で尽きるおでん種**

献立はおでんです。カミさんは出かけるようです。

**チンピラの真面目なこころ秋の空**

女心と秋の空、男心と秋の空とも言います。